

Kitasato Memorial Medical Library

F
牙-38

阿蘭陀流

共七卷

三

阿蘭陀流
風毒
水腫
疥癩
疔瘡
乳癰
疔瘡
疔瘡
疔瘡
疔瘡

阿蘭陀流
風毒
水腫
疥癩
疔瘡
疔瘡
疔瘡
疔瘡
疔瘡
疔瘡

494.2
Or-14

No. 212



富士川文庫
3059

阿蘭陀流

風腫

腐骨疽

日腫

瘰癧

乳癰

乳草

甘乳腫

風毒

水腫

痰腫

氣腫

乳岩

瘰癧

集見頭腫

甘乳核



先初癸ニイベリミタルカ吉イベリ
油トキ餅 ヤウハ。ヲ、リヨ。セムカテニトヘリ。ロヨヨリラ
 ス。下ニヌリ上ニテマハルカテ。ヨイ
 ニヨ。ヲ木綿ニアツク付上ニカブセ
 木綿ニテ巻麦常ノ加様ニ冷性ヲ以
 一日散ニテ見少ニテ毛散則ハ右之
 仕掛吉是ニテ散サハ則ハ温系ヲ以
 散ニタルカ吉茶ニハ。シ、ハ、リヨ。ア子
 介テ。全ヘニ小ウイキヤウクワリ。全。ヲタゴハ。ホス。右三色

高腎症 風毒 水腫 肝腫 肺腫 脾腫 腎腫 膀胱腫 腸腫 胃腫 胆腫 膵腫 胰腫 脾腫 腎腫 膀胱腫 腸腫 胃腫 胆腫 膵腫

ホ分ニ合下ニヌリイニクエニトヨ
ハリウニ直ニヌリ蓋ニハ。其ニハラ
スト。ゲジリウニカテヤキ口ニ可甘
卷事右全俣ニ三日散ニ腫毛へリ上
ニハカルレハ散之又何共無カ結白
痛出腫上ルカ熱サハハウムト可知
左毛無則ハ又扱惟ヲ以散事毛有葉
ニハハヲハリヨ人由キソキヤ。ヨハニ全
カ野菊メイリ全。ナ子アカラ渡油テレメニテ
イナ。右ヲ合温メ能ヌリ付其上ニイ

ニクエニト。バジゴニ。ヲ直ニヌリホ
ウレイ綿ヲカフセ蓋ハエニバラス
トムラキニフス。ヲシ本ニハラス高月コロシヨニ吉
卷夏如常加様ニ細々仕掛クレハ散
ハ散之ウムハウム之彌引上療治專
一ニ引上ルシカケ下ヲ洗シ

○洗茶之方

○メリロウト

○アキリモウニ

○三ナアモシ

イラ草
ウエル
テイカラス

各十莖
小麦
ヲ二十莖

生養
セニ
シイフ
ラ

○ 下ウク凡五支

○ 水アト口五升

○ 酒イニヨニ合

右袋ニ入

右ヲ入三升ニ剪シ則袋ヲ湯手ニ而
又ルク無様ニ而洗備テ付糸ハ^{ケニ}瑛
アツヒヲ四十目細糸而^ニ口ウク
大ニツラ、ホスノ口ウトニツ入能
スリ合セ痛所ニ直ニアツク又リ上
ニ紙ヲカフセ木綿ニテ巻事如常加
様ニ仕掛レハウム又散変モ有右之

是非ハ腫物之様子次第免角付テ不
見ハ不知也其上ニ付阿蘭ハ一日ニ
二度計モ膏系付替凡事此故也 是ニ
テモ不散ウ^{由桂}ハサ儿則ハヲ^子ハ^根リヨナ
アカラ全^{由桂}ニ^根モウミ全^根ヲ^根イセス
アルテイヤ全^白リヨウルニ全タイラ
右ヲ合下ニ克又リイニクエントテ
ヤルテイヤバジリコニト合直ニ付
ホウレイ綿ヲ置蓋ハエニハラスト
メリロウトヲ付巻変右全是ニテ必

ウム也右療治ノ内ニテト口ナト
用テ吉ウミタラハ針ヲ立膿ヲ出シ
備メイチヤニイニクエニトバシリ
コニニ企エケフチヤコニ少加サシ
上ニモ甘木綿ノホツシ薄付置蓋ハ
エニパラストカラサテイヤカヲシ
コロシヨニヲ可付加様ニシカケレ
ハ肉ウミ取レ後ニ水出ルアボルト
口ウルニニテスワセ右之内細々洗
也洗茶ニハエゲブチヤ少ヒ^酒イニヨ

少^水アトロヲ入温メ洗タルカ吉ア
フラウミニナラハサアラヲ付イヘ
肉ニナラハテキステイフニニテ肉
ヲ上愈事アニタラス全前

叭毒

一 風毒ハ叭腫ヨリ睨深シ初発ヨリ深
蒸熱症之膏茶吉必ウム者也散夏モ
有去ナカラヲ希也ウミタラハ早ク針
ヲ立也少ニ深キガ吉骨ナトニ睨付
膏クタケ出夏有蓮ニ成三ツ四ツモ

穴アキメイチヤ五六寸モ入年久有
ルハ足ホソク成色黒紫ト成穴ヨリ
肉出テコフイカノ如也痛強モ有加
様成ハ気腫ト成難治療治者爪腫後
ノ療治言也

アホストマアセ 骨疽

一 アホストマアセハ甚痛者也久而愈
難也療治ハ爪毒全疥也

アカフリ

一 アカフリハ大小便ニテ下ニタルカ

吉付茶性熱ニメ 燥ナル茶吉也

茶方

○ウ^{ウラ}ル^州テイガスノミ。ス^硫ワ^黄アブカ

○ハ^ハル^ルス。カ^石ベ^灰リウニヘ子リス

○各^各ニ^二イ^一。ホ^ホルト^トカ^カル^ル一^一合^合。セ^セイ^イラ^ラニ^ニイ^一。

右寛々ト煉テ付ル也

又方

○コ^石ル^石テイ^石セ^石ス^石カ^石ル^石ナ^石ア^石ト^石五^五イ^一。ヲ^ヲ、^リハ^ハヌ^ヌニ^ニイ^一。

○ロ^ロウ^ウリ^リイ^イ子^子三^三イ^一。ヲ^ヲ、^リヨ^ヨタ^タイ^イラ^ラ十^十イ^一。

○マ^マレ^レイ^イラ^ラセ^セイ^イラ^ラ八^八イ^一。

右寛々ト燻テ付也

一 小児頭腫ル療治右之系吉右之方ニ
ヲ、リヨカモメイリヲ加工腫ニ又
リ其上ニスワアブカラ末而ヒ子リ
掛ル也是ニテ不敬則ハ針ニテヤブ
リ血ヲ出ス也其後ハ腫物口明タル
療治吉右ハ水腫ノ如成ニ付ル也

日腫

一 日腫ハ天之惡氣ニ當リ出ル血之
性也手足之指先ヨリ血ヲ取ル也少

内ヲ下ニタルモ吉亦冷タル上
ニ子セ置也付茶ハヲ、リヨカ
ス全クシエヘシロシブ力カウ
ホ合ブル子ルカニフルホウ
ニ色ヲ加スリヌル也

疾腫

一 初癸ニアラクアタラサルカ吉散シ
テ可見不敬者也敬様ハ先下ニヲ、
リヨカ^野サ^野ア^野口^野ニ^野全^野ア^野子^野イ^野テ^野全^野メ^野ル
テ口ウルニ合克又リ上ニイニクエ

ニトステヘクニ直ニ又リフクタメ
木綿ヲ薄クカブセフタニハエニバ
ラストテヘンスイフニ木綿ニノへ
カフセ置夏如常加様ニスレハ散夏
モ有何共無身色ナラハワルムノ生
ヲ用テ吉。メスイニヨアイニハヨハ
ホス全テレメニテイナ全ナ^イアカラ
ヲ合温メ克又リ上ニハインクエン
トアウリウニ直ニ又リフタニハケ
シリウニ吉加様ニ四五日付カへ腫

スチラスハ右ニ色ノヲハリヨニシ
ナアモウミニ^シクテイヤタイラ加
エ温メ又リ上インクエントバジリ
コニヲ直ニ又リホウレイ綿ヲ置蓋
ニハエニハラストヲシコロシヨ
カムスラキニフス吉加様ニスレハ
散事モ有散ハイヨ々右之療治吉不
散而赤^膏ミサハ^ウハ^ニムト可知茶ハハ
シコニエゲフ^膏チヤコニカ^ツタフウシ
シ少加へ右之油ヲ下ニ又リ其上ニ

付綿ヲカフセフタニハ右吉是ニテ
 ウマサル則ハ灸ヲ拾五壯カニ拾壯
 計而上ニバジリコンニスヒリマア
 夕少加工直ニ付上ニハ右全加様ニ
 仕掛レハウム也ウミタラハ針ヲ左
 膿ヲ扱メイ々ヤニハバジリコンニ
 エケフ々ヤコンカ妙フウシヨ加工
 可付蓋ニハカラサテイマ吉加様ニ
 仕掛テ腫ヘリ膿トル也口セマクハ
 大キク而燒金切々アテタニカ吉愈

カタキ者也肉ウミモ取レアフラ膿
 出ハアホスト口ウルニヲ付愈様ア
 ニタラス全前也

臈呼ホルカス 瘰癧

一ヘレイマノ如アラクアタラス温茶
 ヲ以和ニ仕掛散事專一也肉茶肝要
 也始中終ヘレイマノ療治吉

気腫

右日改

一アルホルカスノ療治ト全前気腫口
 明ケハ殊外難愈モノ也工夫可有之

口傳

乳癰乳腫

一へレイマノ療治全前作去初癸ヲ乳
腋ト云冷性ノ糸ニテ散事モ有也

○茶方

○ヲホスミシクナアタシ。ラヒスカルミナアリヨ各量度ス中

○ホラクスツ。ヘイルホニト大

ブルメイノミニテ煉交付ル也へし

イマ初行温糸ニテ散ル事有散サレ

則ハハ行特リコニニテ散事有ウミ

一タラハ少針ヲ立口ヲ明ケへレイマ
ノ療治吉

乳岩乳核

一兩腋ハ石ノ如カタク腋初癸ハアマ
リ不痛平身也灸ヲセヌ而疽ノ療治
全前大事十死一生之者有乳核者少
サ子マル有ヲ云治療ハへレイマ初
療吉

乳瘡

一扱有テ出ル者也小児乳ヲカミ乳首

切クサト成モ有ウミアラハ。サアラ
ヲ付後ハカニフヲトニ吉粉茶モ吉
性ハカワキイエル茶吉也

○粉茶

海クク角

○コルセルウスク

○サラコ、ラ

○ホラクス

○カルハ又ニ星燧ホ分

○アルハヤアテッ

○カハハ又ニ星燧ホ分

右ホ分ボルトガルニテ煉付丹毒之

瘡居ニ吉

瘡疽

一ビスナアケシヲ温メサマシ煩指ヲ
ヒタミ小羊時計置イニクエントス
テヘクニカカニフラトニニコルテ
イセスカルナアト入指ニ又リ蓋ハ
エニハラストテヤハルマカテヤボ
ニホリコス吉木綿ニテ巻事如常是
ニテ散也不散則ハ少ナアトルノ黒
燒ヲ、リヨ。ロニフリコウロニニテ
煉付ル又。ホラクス一味粉ニ而ブル
メイニテ煉付ル是ニテ痛不雷ウム

事有ハ早クラニセイタニテ口ヲ明
 サニゲヲシホリ出ニ右之療治吉加
 様ニ仕掛レハ必散也諸散ス而瘡口
 ニ可成処見エハ針ニテ破口ニハア
 ホスト口ウルニヲ付蓋ハカニフラ
 トニ吉針口克肉出ル事有出タル則
 ハ明瘡變夕ラウ、メヲフリアホスト
 口ウルニトバジリコニヲ合可付是
 ニテ流愈肉ニ成ハ愈ス事如常又大
 破ニ成山崩痛強成則ハヲ、リヨロニ刺ノ由

フリコウロニムカテトヘリテレメニ
 テイナ三色ヲ合ヌリ付蓋ハ右吉加
 様ニ而モ痛不止則ハヒイニヨニイ
 ニクエニトエケフチヤコニヲ入洗
 バジリコニエケフチヤコニヲ少加
 エフクタメ木綿シ薄カブセ蓋ハエ
 ニハラストカラサライヤ吉ヲ三コ
 ロシヨニモ吉本ヲフセク事デヤハ
 ルマ吉加様ニ仕掛隨分腐ヲ取事專
 一也諸痛モ止腐モ止アフヲウニニ

成夕ヲハアホスト口ヲ凡ニヲ付吸
也跡ヲ愈ス事如常腐肉薄皮程ヲ切
取也諸痛ノ止様ニ腐ノ取様口付有
之也

成夕ヲハアホスト口ヲ凡ニヲ付吸
也跡ヲ愈ス事如常腐肉薄皮程ヲ切
取也諸痛ノ止様ニ腐ノ取様口付有
之也

成夕ヲハアホ又ホ口下凡二
世跡ヲ意不事如毒腐腐腐腐腐腐
取也傍有ノ止張ニ腐ノ取燒口
之也

阿蘭陀流

小名

蓮根

丹志

使毒

下指

阿蘭陀流雜病

共七卷

四

阿蘭陀流

共七卷

阿蘭陀流

小舌 下 蓮根

丹毒 便毒

下疳 瘡毒

出痔 痔漏

吐瀉

吐瀉

不眠

不眠

丹毒

丹毒

小谷

小谷

巨細病案

一 小谷ニ二色有頭ヨリ起属シテ子バ

キ痰下リタマニリテ出来ル者也

口中ノヤウ成者也小谷ニ成リテ色

赤ク白ミサシホク色ニ而和カ也

ハ治シ易シ今一色ハ黒ク堅ニ是ハ

久ク難愈

○薬方

○アルテイヤ ○ラテイヤ ○ホロムベイヤ

○スウク^サク^クル
右ヲ剪洗腫タル上ニハリイタリキ
リエニアリ末而ヒ子リ掛ル是惡
ナラサレ療治也

○ホケ色ノ小舌ノ菜

○ヒナアケレ[○]不冬ウメケイヤタ

○ソ^鹽ト少

右三色剪^ニ其汁ニテ洗上ニハ^石コ^榴ル
テイセスカナアト粉ニメソウト少
加ヒ子リ掛ル膿タル則ハ針ヲ刺而

膿ヲ取其跡ヲヒ^酒イニヨヲアタ^ハメ
洗右之菜ヲ可付ニ日過テハム^ハリ
ハ又ニイラ^是ニテ洗也

○蓮根

一 初^初癩ハバ^シリ^コンニテウマ^ニタル
カ吉^備口アキ^タヲハ洗^茶ニテ可^洗
茶ニハワ^アト^口メ^イル右ヲ合^テ可^洗

○又方

○セハ^アタ[○]ワ^アト^口口^ウザ

右ニ色合可洗

○又方

○ブラタトウコハ。ワアト口ニテ。

○ロウザワアト口ニテ。アルニテ。

右ヲ合氷ハジキニテ可洗中請キニ

隨テハ

○メイル煎。

○マステギスコル。

○メイラコハ。

右何モ末而子リ合取エ入ル上ニハ

テヤハルニ吉右ニテ悪キ則ハエゲ

ブヤヤコンホツシニ浸シ内入其上

ニカニフラトニヲ可付也

○瘡毒

其品々雖多先氷州走火州穴州切州

青州白州右類也上ニ多ニ水草ハ粟

粒ヲ卷タルカ如ハラタト出廻赤ク

痒而痛モアリ後ハ汁出瘡成者也

○紫方

○早小豆皮ヲ去。アルバヤアテ中

○ベイルホニトツ
右未而ブラニトウゴニテツクル汁
多出ハコルノセルウスク付
一火州銘々ニ不異丹ニ朱ヲマブシタ
ル如廣ナリ汁出テホメキヒ、ラク
者也

○薬方

○ソキヨカアナ。○ルイハルホ
○ヘイルホニト。○ホラクス右ホ分
○フル子ルカニフル少

一 フランタトウコニテ煉付ル也
一 走州大豆程宛フクシ左板ニ水ヲ流
ス如ニ而少腫廣クナリツフレテ汁
出其汁ノ當ル所ハ瓜ニ任スル次ノ
如癸扱有テ色赤シ

○薬方

○カイコノフニ粉ニメフランタト
ウゴニテ煉付火瘡共云
一 切州ハ手足ノツキメ兩之股ニ出効
ハアセボノ如自然ニ痒ナリ痛毛有

次第ニ廣ヒ、ワレ難愈也

○菜方

○クエルシミ

○フロウリスホニク

右細糸而へツテハルコスニテ煉付

ル也下地ヲ洗タルカ吉

一 宛州ス子ニ出ル骨ニクサリ付テ難

治也

一 青草初ハ口無ク而堅ク腫テ後肉血

出ル破儿、ヨリ其底深ク骨追見

工儿者也夕ト工ハ鳥之目ノ如ナ儿

者也宛草トモ云也

○菜方

○メキヨカアナ。へイ儿ボント

○サニコスタラカウニス。川ニナ

右ホ分ホルトカ儿ニテ煉也右宛草

ノ初ニ吉

一 白草ハ初ハ白ク身色ニ而少腫次第

二廣クナリ赤ク色ツキ後ハ里クナ
リ押而見ルニ凹ニナルハ白州ト可
知也

○茶方
○タルヲ
○ヘイルボニト

○コウクスヲリエニタリス。セルウザ

右ヲアゼテカウコニテ煉付ル右何
モ皮ヲ付ル夏カニフヲトニカテヤ
ハルマ吉又

○コルノセルウスク。セルウサ
右ニ味未而ヒ子リ掛ケル也

○便毒

一初癸ニハ散シタルカ吉散ニ様ハ腫
物ニテヤハルマヲ付下ニヲ用事專
一也下シノ方ハカラフニクラノ門
ニ見ル又足ノ折目ノ大筋犬指ナト
ニテサニゲヲ取タルカ吉隨分散ス
事第一也一所胃中穴一所ハ足大指
折目ノ横内ノ方

散系方

○ヲラニジアワカ異天。ヘイタラウ生少。

○コルテイセスカルナアト

右三色ヲフルメイニテ煉付ル加様
ニ仕掛散サル則ハ灸而イニクエニ
トバジリココニニエゲフチマココニヲ
少加直ニ又リフクタ木綿ヲ薄クカ
ブセ蓋ハエニハラストムスラキニ
フス吉加様ニ仕掛レハウム也又散
事モ有ウミカ又ル者也又ウマサル

先ニ針ヲ立サニゲヲ抜下モ有又ウ
マスルニウマサル先ニ針ヲタツレ
ハ気血又ケテウミカ子沉ム者也其
ハ腫物次第也能ウミタラハ針ヲ刺
膿ヲ出シメイチヤニアホストロウ
ルニヲ付ト肉ヲ抜取ヘニアブラウ
ミニナリタラハヲ三口ゴニヨニ可
付愈ス更何モ日弁便毒ニ針刺更口
付

○下疳

一先少ニキニハビイニヨニワアト口
 加ベイタラウ、メ少入アタ、メ切
 ニ先水気ヲヌクイ眼有二ハカニフ
 ラトニニヲ、リウニヘイタラウ、
 ノ少知甘ル是ニテ眼ヲ流タルカ吉
 流サル則ハカニフヲトニニアホス
 ト口ウルニヲ加甘ル是ニテ流ルハ
 也其跡カニフヲトニニテイヤス脱
 アラハヲ、リヨヒヨウヲズ口ウサ
 口ニヌルヘシ倍愈肉ニナリタラハ

此系ニテイヤス

○散葉方

○ユル色ルウスク ○サラコ、ラ右ホ分

○アルハマアテ

右三色ヲ末而甘ル也

○眼流方

○アルニ ○メキヨカアナ

右ニ味ヲ細末而付ル也

○莖有二者

○ヘイ凡ホニト ○カニフヲトシ

。ホラクス
右之三色吉

。何モノ下疳ニ能薬之方

。サラコ、ラズ。コルセルバスク申

。メキヨカアナ中。マステキス少

。一イタラウクメッ。アルハヤアテッ

右ヲ細末而ヒ子リ甘ルニ燻ナキニ

ハ食ノ取傷ニテ甘ルニ

。洗茶

ホウリアルテイヤ。ヒヨラス

。イヘリコニ 各ホ分

右五色ヲワアト口ニ盃入一盃半ニ

煎サマシフクメメ 木綿ヲ湯半ニシ

洗右ハ腫熱有ニ吉

。又方

。カツヘレスホ口ウリウシ

。一イタラウメ少。アルテミイラ各ホ分

右三味ヲ右ノ加煎洗能モ全前又腫

有ニ血ヲ取タルモ吉

。又方

○ヒイニヨ。エケフ午ヤコ
右ニ味ヲ入洗 膠トニク有ニ吉

○又方

○ヒイニヨ。カニフヲトニ

右ニ色ヲ合洗肉上ケ愈又ニ吉加様

ニ錐書記瘡治品々有腐ヲ留几一專

一也

○瘡毒

一 先下ヲヒイニヨエケフ午ニテ洗又

其上ヲ

○カツヘレスホウリウシ。ヘイルホニト水ヲ入煎

○付葉

○ルイハルホ

大黃

○アルン

明荅

ヲ、リヨカニホラ午マノウツトニ

テ煉エケフ午少加付ル其上ヲ二三

度程煖釜ニテ温メ蓋ハシニコロシ

ヨニ吉加様ニ三カケ腐取レテ本肉

ニナラハテヤハルマニテイヤスへ

ニ膏ニ腐付タルハ難治備少人滞ニ

ババシリニエケフチ少加付上ヲ温
メ蓋ハカラサテイヤ可付也

○出痔蒸茶

コロハ

○セイモニ子ゲレツタヤ ○セイモニリイ子

○タルヲ各二十枚 ○三十モウ三十枚 肉桂

ホウユウ

○ヘトウニカアル十五枚 ○メルテロウルン 桃葉

○スウクハ各二十枚

サトウ

右七味ニヒイニヨ五合ワアト口ニ
升五合入ニ升ニ煎三蒸洗右痛ヲ和
ケ冷ヲハ温メ気血ヲ廻ヌ也付茶ハ

ベジリコニニヲ、リウン加付ル蓋

ハメリロウトカムスラケニフス者

○付茶

○テキステイフニ

右煉付蓋ハヲシ三口三吉出タル者
破レ取ル也

○愈茶

○キツホルス粉 ○アルハヤアテ

右ニ味ヲホルトカルニニ煉成有二
ハ入ル也

○洗菜

○イタラウノ

○リイタリキリミアルカニライス

各妻

○イクエニトエケフ^{ニ妻}○セイラアルヘ^{ニ妻}

○ヒイニヨ^{ニ妻}

右ヲ合煎洗愈系ヲ付也膏菜ハテヤ
ハルマ吉右ハ出痔ノ痛ヲ留跡々々
レタルニ吉十日程ニ愈也

○痔漏

一バシリコニニエケフ^{ニ妻}ヤコニ少加
メイ^{ニ妻}ヤニ付穴工入上ニ毛付蓋ハ

ムスラキニフス吉加様ニ細々仕掛
クレバト肉取レ咳出手愈スル也尻
蓮ノ瘡治ハ痔漏ヨリ上也

○決意

○一不夕方ウナ

○リイタリキリミ

○イウクエ下ニケテ

○ヒイニヨニ

右ヲ合得入流意系ヲ付也

ハ比マ吉右ハ出瘡ノ

ハ夕ルニ吉十日程ニ

通ノ意ハ八拾臨日

クハハナク取上

ハ不ニハナクニ

一 阿蘭陀ニハ初

也然共海人ハ

心込受ス其山

二 天以ハナク

ハナクハナク

共七卷

阿蘭陀流

一五

阿蘭陀

共

一 阿蘭陀ニハ初癸ヨリ立傷リ仕掛ル

也然共傷人ハ弱キ故初癸ニ痛覺ユ

ル迄灸ス其上之療治ハバシリコニ

ニテエケフチヤコニ三ヶ一加工直

ニ又リホツシ木綿ヲ薄カブセバシ

リコニヲ赤身ノ有所迄道ニ又リホ

ウレン綿ヲ薄クカブセ蓋ニヲシコ

ロシヨニヲ木綿ニノへ上ニカブセ

コミ糸ハ生血ヨラサル様ニスラベ

クニヲ直ニ又リ命ヲ蓋ニ而備テ腫
物之上ニホウレテ綿ヲ置其上ヲ木
綿ニテ三重四重毛卷置也加様ニ三
カクレハ腫物上ル者也翼日膏薬ヲ
取見レハ腫物上皮膚ニ成者也虚性
ニテ上リカスル則ハ又灸而仕掛右
日蒸也蓋膏薬メリ口ウト付ル也又
翼日見則能上リ膿ニ成之其時針ニ
テ之傷リ膿ヲ切取也若シ血多走共
驚走無ボウベテニシ付血ヲ留其上

之瘡治右之糸ヲメイ今ヤニ又リ押
コミ右之仕掛ニ左加様ニ仕掛ル内
ニ膿肉大形トル也翼日右之糸ニ
アホスト口ウルニカタフウシ押交
付也膿トレス而毛ト肉ウク也ウキ
父ル則ハ切テ取ル内ニ穴有其穴ニ
毛腐有シ毛川ニテ取也坑工ノイ子
ヤニ右之糸ヲ付サス也上之仕掛右
日加様ニ而膿リトル也トレス而
結夕ウキ工廣ク膿行有是大麦也

此時ハ先ヒイニヨニエケフキヤコ
ニヲ加工温メ水ツキニテ洗廻リヲ
デヘニヌイブニニテカコミ内之仕
掛右全随分引上ル仕掛專一也將物
之カワカザル様ニスベシカワク則
ハ腫物沈ム也脣腫リトレ下ヨリ赤
ミ出ル則ハアボストロウルニホツ
ニニ付メイナヤニサニ上ニハハシ
リコニヲ塗蓋膏系ヲニコロシヨシ
カラサテイヤ吉加様ニスレハ惡腫

吸出シタワシル出愈肉ニ成也其時
ヒイニヨワアトロニカニホラトシ
入温メヲボスノロウトツツブ
シ入能加減而洗水気ヲヌクイテキ
ステイフンホツシニ付穴工入蓋ニ
ハケシリウニ吉儲肉一倍ニ成タル
時ハテマハルカテマボニホリコ
スニテ愈ス也
一愈時令肉ニ高下有テ腫入ル方有則
ハ肉ノ方エハ木綿之ホツシ計ヲ付

於入方ニアボストロウルクニトアウ
リヨムト合ホツシニ塗付也蓋ハテ
ヤハルニ餘リ肉ニ成方有則ハヘイ
タラウハメケイハタヲフリ掛蓋
ハカラサテイヤ計ヲ付也又ハ愈ル
則斂肉ニ似タル者也其ハ肉ヲロウ
ス大小有テ上ニヌレ帛ヲカブセタ
ル様成肉也其見シラス愈肉ト心得
愈系ヲ付レハ朕元ノ如ニ成惡瘡ニ
成治之難ニ初之アホストロウルク

可付也出タル斂肉破タワシル出其
下ヨリソロイタル愈肉出ル此時ハ
テキステイフニヲ付カラサテイヤ
ヲ蓋ニスル也又愈則殊外痒タワシ
ル多出ル其有其時アルニメキヨカ
アナニ味ヲ合ヒ子リ掛其上ニホツ
ニ木綿計ヲ内ニ入蓋ニテヤホニホ
リコスヲ付也是ニテ痒キ更止タワ
シルモ留也其後ホツニ計ヲ内ニ入
膏葉ナニニ木綿ニテ巻也肉一ハイ

二有ハ皮ヲ付ル何モ木綿ニテ巻
右日煎也
一皮ヲ付ル皮ハ肉ニ高下ナク八分九
合之時木綿之ホツシヲ中エ薄ク入
廻リヨリベケタラウハメケイマア
夕ヲヒ子リ其上ニテミイニヨリ付
ル其跡ヲテヤハルニテ愈也肉加
減能トテ一ヘンニ皮ヲ付レハ必又
内ニ膿ヲ持惡瘡ニ成愈カ又ル也一
切之腫物愈極ニ如是ニ可心得也

△疽

一 アニタラスノ如先初癢ニ覺ル程灸
ス上ヲラニセイタニテ立傷リ血ヲ
出ニ瘡治ハバジリコニニ口フトウ
リウニ少加エホツシニ付押込其上
ニハシリコニヲ座トリ迄厚ク塗フ
クタメ木綿ヲ薄クカブセ蓋膏羊ム
スラケニフスカメリ口ウト木綿ニ
厚クノヘカブセ上ニホウレイ綿ニ
テ巻変右日煎此時分シント口ノ水

剪ナト用テ吉如是膏茶ヲ付ハ殊外
痛堪忍ナラ又程痛腫上レハ吉少モ
不苦是吉ソウ也加様ニスレハ底ノ
膿ニ腐付也翼日茶ヲ付替ル時ハ口
ブトウリウニヲ去バシリコニエケ
フチヤコンニカタフウシヲ加メイ
チヤニヌリ内ニ入上ニモ塗殘仕掛
右日并沉安キ腫物成ニヨリ癩キ茶
ヲ付腐セ引上ル也アニタラヌヨリ
底深クト因腐有者成故切取下專一

也於タル皮肉切取則ハ血大分出ル
夏有不苦早ク留其上ニ膏茶付ル夏
右日并如此而モ膿不留則ハ燒金ヲ
當ル也惣別膏茶ヲ付タル上ニハ膏
タルカ吉腐止ル油茶也熱性之油也
假令ハヨ、リヨボスヲ、リヨカモ
メイリヲ、リヨビテリヨウルニ右
三色ホツシニニタシ内ニ入上之仕
掛右日是ニテモ腐止サル則ハビイ
ニヨニエケフチヤコンヲ入温メ水

ツキニテ能洗内エコルホウ子ヲビ
子リカケホ帝ヲ付其上之仕掛右曰
如是スレハ一日一夜程ニハ底之脛
取ル也

△折皮巾之法

一 ハルニヨシ一西細末ヲ
カタフウシ一西皮ヲ
右ニ味ヲ松原之巾ニ包木槌ニテ少
付木ヲ夕ノ如ニスル俾殘ル腐ヲ取
切也加様ニ而モ腐止ザル則ハハツ
ハスヲ掛ル掛様口付ハツハスヲ掛

レハ腐モウキ腫物モウルヲイ集ニ
成也

△腐取法

一 サアホハルコラスニカタフウシニ皮
右合黒焼ニ而ベイタラウ、ノ少加
工脛ニヒ子リ掛テヤルテイヤヲ木
綿ノホツシニ付内ニ入蓋膏茶ハメ
リ口ウト吉上ノ仕掛右全如是仕掛
レハ十ニ九ハ脛トル、也若止スト
レスニテ廻リ緑膏凹ニ成色黒黄ニ

深く成ハナシ死一生也肉ノ見様瘡臭
之見合不知而ハ難成也腐リモ止リ
ド肉モ取タレ則ハアホストロウル
ニテハ掛愈ニ揉アニタラスト同
前也

一 陰腐陀ニハカラフニクラ
レハ所カワリテモ別ニ名無ニ何レ
ニ出及テモ仕掛ハ全前テイマニメ
スイニヨヲ付ル変ハバシリコニニ

エケフチヤコニ少加カタフウシヲ
加腫物之上ニ付フクタメ木綿薄ク
カフセ蓋ニエンハラストシニコロ
シヨニカラサテイヤ吉廻リハカニ
フラトニカヒヨラスヲ直ニ又リ加
揉ニスル則ハロヤブレ振後ル也自
然不後則ハ右之下膏葉ニロブトウ
リウニ葉分加へ下ニ付フクタメ木
綿薄クカブセ焼金ヲ當テ蓋ニハエ
ニハラストシニコロシヨニカラサ

テイヤ吉廻リハカンホラトニカヒ
ヨラスヲ^{根後}直ニ塗加揉ニスレハ
口傷レ根後ル也自然痛強腫ル^{変有}
ハヲ^リヨヒヨラス曰口ウサロ
曰カンフル日セトヘリ日クレイ
ベシ日口ニフリユウルニ加揉之類
ヲ腫ニ可付是ニテモ痛止ス腫ルナ
ラハ出^又處之揉子次第ニテサシゲ
ヲ可取此阿蘭陀大^変之仕科也サシ
ケ之取揉口^傳有^加揉ニ仕科痛止腫

モヘリ根モ抜タラハバジリコニア
ホストロウニホ分ニ合メイテヤ
ニ付蓋ハ右吉隨分根後取ル^変專一
也

△根後之法

スヒリマタメリクヨシ
カワアサ^黒燒カタフウシ日
右三色細末而付ル^諸根後テ後愈ニ
揉アニタラスト今^前阿蘭陀ニハカ
ラブニクヲハ初^染ニラニセイタニ

テ立傷り升ニ一ヶヲ押出シ其レ々ニ
佐料シ凡左様ニスレハ痛強腫上リ
病人單臥更者故ニ和灸杯而強膏系
ニテ療治ニ女几力吉去其段ハ腕
物之虛實様子次第ニテ立傷テ毛吉
阿蘭陀ニハ加様ナレテイマニ様子
次第ニテ下ニ用几更者有也

△下ニ之法

ホコリハリニカメイルニ甘白湯ニ
テ用又方ゲルゴニ一味白湯ニテ用

凡唐流和流ニハ肝物カワキ沈トテ
キヲ工共虚候肝物之様子ニヨリ下
又更不知候也右記ストト断羊之付様
燒金之付様肉之見様色々口付有之
矣

右ア儿マニスカアツ信

テ去傷明升ニ
付海山比左様ニ
有人事即直有故ニ
古月總意三ノ
物之集集の標子
陸公爾也二ハ
幾集之付標國
以城此務取
半之付共標
其標集標集

阿蘭陀流金之槍

共七卷

六

一 阿蘭陀流金瘡

一切疵ハ先ヒイニヨヲワカシ洗アセ

テコウコヲ引糸ニセイヲ塗其疵

之様子ニヨリ間一寸ニテ毛五分ニ

テモ見合取合之能用ニ可縫也疵ノ

様子ニヨリ少縫残ス変毛有メイチ

ヤヲサス変毛有備ヲ々ホスヘツテ

バカリニヨリカブラヲ少加ヘカ

キマセ木綿ニヒタシ疵ノ上ニ付ル

其上ヲ木綿ニテ四重程巻也

一 疵縫立儿内ニ病人気ヲ失フ莫有其
時少モ不驚酢ヲ茶碗ニ入其内へ火
ヲ入病人ニカクヤ也時々水ヲ以面ヲ
又ラシ或ハ氣付ヲアタ工可縫也縫
内大莫也阿蘭陀人南蠻人常ニ内某
ハ不用也日本人ニ内某用儿莫專一
也或ハ血雷血下シ其外金瘡之内某
用儿莫第一也惣テ疵ニ汎ノアタ儿
莫大忌也イカニモ温マ儿揉ニ養生
專一也時ニヨリ少シ冷ニ而能莫有

也

一 疵縫立テ作テ病人ヲ子セス置也自
然子イリ憂ナト見儿時ハ血ハ三儿
者也若シハ三ヲハニイニヨリ口カ
三右之疵ノ上ヲ洗着血不雷ハ血留
ニテ留儿也第一付儿莫右ニ日并也
療治之次第ハ三日迄^ハ同并一日ニ一
度宛付替儿也諸疵初発ニ洗テヨリ
以後ハ湯水ヲ掛儿莫忌也四日目ヨ
リヲハホスベツテゲエ儿一二付

一 凡卷夕儿木綿ヨモ一重宛取也其疾
之様子ニヨリ五日メ六日メニモ茶
ヲ切也切様ハ一ツ越三二日々切也
疵之大小ニヨラズ一度ニ不切者也
一度ニ切ハ疵口周クニヨリ見合切
也糸ヲ切テハテキズイフニトカニ
フラトニヲ一ツメ付儿是ニテ仕上
儿愈膏茶ニハテヤハルマカテマホ
ニホリコスニテ愈ス也自然疵ニ膿
気付時ハステヘクニカテアキ口ニ

一 二テ療治スヘシ
一 疵ニヨリ不縫而療治ス儿時ハヒイ
ニヨニテ洗ヲ々中スヘツテニアセ
テコウコヲ少ニ加工木綿ノホツシ
ニヒタシ疵ニ入其上ニモ木綿ニヒ
タシカフセ置也卷事右同前三日過
テヨリハ膏茶計ニテ仕上儿愈茶ハ
右同前也疵ニヨリ初桑ヨリ膏茶計
ニテモ仕立儿也
一 腹ヲ切腸出夕儿時ハ病人ヲムサト

一 不働其座ニ置腸ヲアラクアツカワ
 ス病人オコシ後ニ奇カ、リヨ付其
 腸之出様ニヨリ器ヲ見合ヒイニヨ
 ヲ温メ暖ヲ洗右血無様ニメ温メホ
 ウレイ綿ヲヒイニヨニヒタシ其二
 テ腸ヲ夕ニ々ニ入ル也縫様療治モ
 右曰前腸出様ノ大衰口脣有腸少モ
 疵有ハ療治難成見様ハ腸切夕ル時
 ハ其三儿ズキ有モノ也
 一 鎖痲疔深ク見エハサクリヲ入見テ

一 其深ヲ見合ヒイニヨヲ温メ水ツキ
 ニテ四五度モ洗療治之次第曰前水
 綿ノホツニニヒ夕ニメイチマニモ
 サス也其上ヲ卷夏曰前鎖痲ノ口フ
 サカラ又様ニ養生スル也但ヲクへ
 浅ク口セマクアラハ不若鎖痲ニテ
 モ療治スル也
 一 鉄炮痲玉内ニ留リ夕ラハサクヲ入
 見合モ引ニテ後也自然玉深ク入モ
 引不及而裏淺ハ玉ノ有處ヲアニセ

イタニテ切破リ玉ヲ殺也其跡ノ瘡
治ハ鑽疵曰疥也

一 フ正ヲカキタル者ノ洗搦曰疥縫搦
口傳有瘡治之付掛ハ右曰疥也

一 瘰ニアリ虫ナトノ付タレ瘰有其時
ハヒイニヨニカニフヲ生ニテ少シ

一 入瘰ニカ、ラ又搦ニ虫ノ付タレ處
計洗也

一 瘰ニウシワク暗ハアルニノ霜水ニ
入鳥之羽ニテ可引虫死ル也

一 諸瘰ニ筋切タレト見ヘハヲ、リヨ
テレメンテイナヲ可付也テイナハ

筋ヲト、ノへ能愈ス者也

一 古瘰ハ見合ニテ十八方之瘰ヲ以テ
肝物ノ療治可仕也

一 瘰ニヨリ肉上リ邊ル所有ハ肉切ヲ
入同膏ニ而愈ス也肉切ニハ一イタ

一 ラウ、メケイマアタ
肉上リカ又ル瘰有ハテレメニテイ

一 ナヲ下ニ塗其上工コルノセルウス

クニヒテリヨウルニ少加一ヒ子リ
 掛ル肉上テ愈ス也
 又ハテキスライフエ毛吉愈ニハテヤ
 ハルマカテヤホニホリコス也
 一 血留ニハボウヘイシ
 一 金瘡ニハ生奠其外温物之類ヲ可忌
 自然痰カワカハ雞ヲ水煮ニメ少味
 ヲ付能カケニニ而其汁ヲ用ル也身
 毛少宛用テ吉病人強ナリ痰ノ色毛
 能成也

一 ヘイボト下是黄栢也
コロハツ子其松脂也
 雞卵

一 落馬之時折ヒニキ血出ハ金瘡之療
 治スヘニ血不出時ハ十八方之内ヲ
 以療治最也
 一 痰ス子ナトクニキタ几時ハ
 △ヒイニヨタアリス △ホントルタイラ
 へイホニト △ヒイテニタイラ
 コロハツ子アツヒ △ヒイステニタイラ
 △ヲ々ホス △ヒイフ
 右ノリニ押合クニキタ几所ニ付几
 其上ヲ柳ノ皮ニテ毛黄栢ノ皮ニテ

毛包其上ヲ木綿ニテ巻キ一日ニ一
度宛兩日計付ル其後治スル其後ハ
右之糸ヲ洗フトシ下ニヲ、リヨシ
十毛ウミヲ付上ニハシリコニヲ付
テ療治スル也

一 手足クチキ骨出ル度有出搦ニヨリ
入搦ニ口傳有折ニヨリ口傳有也
一 骨折タル時先ヒイニヨリ温メ木
綿ヲ湯手ニメ能クテ、引ノへ骨膏
ヲ付ル其上ヲ竹スヲキセ木綿ニテ

巻キ置也其後ハ十八方ノ内ヲ以テ
療治スル也

一 金瘡ニ疾ヲ見コ口スト云度有先病
人ノ気色ヲ見合疾之大小ノ見合經
之惡鋪處カ虚候ヲ見合療治スル也
夫々之道具ヲ以テ少之間縫立膏具
ヲ付座ヲ去也金瘡之療治之品種々
有卜雖大形日赤也其外之品有病人
ニヨリ子セ搦繩仕掛又ハ膏糸之付
搦色々其搦子ニヨリ見合次第ニス

儿也日本流二八不繩爰多者リ阿蘭
陀南蠻二八繩爰又第一二不儿也不
繩而七不若其八少疾二八如何據二
毛不儿也大疾八繩夕儿力吉面之疾
十卜八踏見工又據二療治夕儿爰第
一也能夕工夫可有者也下力夕師二
尋子曰伊十うテハ

余劍折舞天與天曰不才云其臨其
舞也夕二疾也人能夕テハ引夕一尋言
卷本置其其疾行夫今古也疾臨其下

阿蘭陀流油

凡也日本城二八不越美秀者り河
陀面堂二八越美秀者り河
越而七不其其八少疾二八如何旗二
七不也也大疾八德多九力吉而之夜
十卜ハ路見壬又旗二膏治六九是身
一也能々二天可看身也卜廿夕師二
尋日修子ナラテハ公来二二

△阿蘭陀流油之方

目錄

阿蘭陀流油之方

附圖經

七

共七卷

一 二 三 四 五 六 七

ヲ、リヨス
ヲ、リヨカ
ヲ、リヨカ
ヲ、リヨカ
ヲ、リヨカ
ヲ、リヨカ
ヲ、リヨカ

阿蘭陀流油之方

於力卷

△阿蘭陀流油之方

目録

- 一 シ、リヨ スクミイ子
- 二 ヲ、リヨ カコフル
- 三 ヲ、リヨ カリヨウフレイヤ
- 四 ヲ、リヨ テレメニテイナ
- 五 ヲ、リヨ アハルト
- 六 ヲ、リヨ ハイテシ
- 七 ヲ、リヨ シナアモ

八 ヲ、リヨヒツトルヨウルン
 九 ヲ、リヨソルフラ
 十 ヲ、リヨヘレケレコイト
 十一 ヲ、リヨハルサモ
 十二 ヲ、リヨロニフレイコウロン
 十三 ヲ、リヨホニトヘツテ
 十四 ヲ、リヨホウス
 十五 ヲ、リヨケニフル
 十六 ヲ、リヨアニイシ
 十七 ヲ、リヨイヒリコン

十八 ヲ、リヨシニクテイヤ
 十九 ヲ、リヨカモメリ
 二十 ヲ、リヨムスカハタ
 二十一 ヲ、リヨスルフル
 二十二 ヲ、リヨホロニヘイ
 二十三 ヲ、リヨセヨウラス
 二十四 ヲ、リヨソラトロニ
 二十五 ヲ、アトルロサアロン
 二十六 ヲ、リヨヲハラ
 二十七 ヲ、リヨアラセニテ

二八 ヲ、リヨヘニクリ
 二九 ヲ、リヨラヘントロ
 三〇 ヲ、リヨメニテ
 三一 ヲ、リヨレリヨウロ
 三二 ヲ、リヨアルテイヤ
 三三 ヲ、リヨラウリイ子
 三四 ヲ、リヨメルテロウ
 三五 ヲ、リヨヲホロム
 三六 ヲ、リヨタアス
 三七 ヲ、リヨセントヘイ

世八 ヲ、リヨルイト
 世九 ヲ、リヨロウサ
 世十 ヲ、リヨロサアロ
 世十一 ヲ、リヨホツホウリ
 世十二 油系配剤

心及鼻孔ノ下ニ捺ルニ血ノ者モ亦用
 力莫汁ヲ送下ス或頭骨痛者毎半
 夏汁ノ好ハ百香人莫湯力又ハ水
 痛病弱弱ハ台湯温成大或淋尿砂石
 性征神效也

△阿蘭陀流油之方

△熱性分類

一 ヲリヨス琥珀クシイ子 修治スクシ

イ子二十兩細末メワアトル百五十

錢入蘭外ヲ以テ蒸取 功能諸ノ驚

悸怔忡或肚腹引痛共ニ醇酒調服ス

癩痢瘡搗ハ白湯温服ス或淋用砂右

豆汁ノ如キハ茴香ノ煎湯力又ハ水芹

ノ煎汁テ送下ス或頭痛難堪者勤本痛

処及鼻孔トニ擦ル血血ノ者毛亦同

二八 ヲリヨヘニ分リ
二九 ヲリヨヲヘニ分リ
三〇 ヲリヨヲヘニ分リ
三一 ヲリヨヲヘニ分リ
三二 ヲリヨヲヘニ分リ
三三 或後頭際ヲテテテ
三四 ヲリヨヲヘニ分リ
三五 ヲリヨヲヘニ分リ
三六 ヲリヨヲヘニ分リ
三七 ヲリヨヲヘニ分リ

或跌撲墜下、好酒服、外又痛、处ニモ塗
或婦人赤白帶下、淡湯服、不_レ愈、痔_レ后
ノ血暈ハ、童便或酒調和之、温服、不_レ其
外奇恃ノ功能、奉_レテ難計、
一、_レリヨカ_レ護胎_レフ_レル、修治カ_レニ_レフ_レル、搗
碎二十兩、_レヲ_レハ_レリヨホ_レル、トカ_レル、一_レ介
入磨合_レテ_レ壺_レニ_レ入_レ口_レヲ_レ堅_レク_レ封_レテ_レ扱_レ灰
二_レ壺_レ之_レ半_レヲ_レ炮_レ置_レ夏_レ一_レヶ月_レニ_レメ_レ用_レ
功能、_レヲ_レ撲_レ切_レ痲_レ及_レ毒_レ虫_レ螫_レ痛_レ或_レ鵝_レ掌_レ凡
疥_レ癬_レ瘡_レ痒_レ共_レニ_レ能_レ治_レ之_レ

一、_レリヨカ_レ子_レヨウ_レフレイ、修治カ
リヨウ_レフレイ、搗_レテ_レ十_レ兩_レニ_レワ_レア_レト_レル
仁_レ西_レニ_レ莖_レ入_レ蒲_レ曳_レヲ_レ以_レ蒸_レ取_レ、功能中
風_レ癱_レ瘓_レ而_レ不_レ遂_レ脚_レ气_レ痿_レ痺_レ及_レ手_レ足_レ羸_レ筋
等_レノ_レ症_レヲ_レ治_レ又_レ耳_レ痛_レテ_レ不_レ聰_レ者_レヲ_レ、_レリ
ヨ_レア_レメ_レニ_レト_レ三_レ莖_レヲ_レ、_レリヨカ_レリヨウ
フ_レレ_レイ_レ一_レ身_レ合_レテ_レ耳_レ孔_レニ_レ指_レ入_レ、_レリヨウ
虫_レ有_レテ_レ嚼_レ痛_レニ_レ可_レ搽_レ又_レ酒_レ中_レニ_レ一_レ滴_レヲ
加_レテ_レ數_レ服_レス_レレ_レハ_レ能_レ令_レ人_レ聰_レ明_レ睿_レ智_レ
一、_レリヨウ_レテ_レレ_レメ_レニ_レテ_レイ_レナ_レ、修治米

一 詳切能金瘡斷筋及竹木刺虫獸傷或
 手足筋絡ノ不伸脚氣痿弱共ニ患處
 二塗或諸般ノ瘡症漏下ナツテ膿汁
 出不止者水突ヲツキ入ル淋病難痊者
 母酒調服ス其効如神
 一 ヲ、リヨ^{油ノ出ル石}アツクイ^ルト 修治別卷ニ記
 切能中風脚氣及筋掣疼痛冷腫凍川
 或婦人小腹引痛共ニ治焉
 一 ヲ、リヨ^{油ノ出ル石}テシ 修治ヘイテシ
 一 芥碎抹面半斤ヲ、リヨレスホニス

一 斤入蒲川^ニテ剪取 功能撲墜下痰
 血凝滯疼痛ヲ治久是菜能温ヲ除キ
 去也其他ア、^ルト 功能ト同可用
 一 シ、リヨシナアモ之 修治ニナア
 モ之粗女ヲ去細末而拵ニ兩ニ莖ヲ
 ヲリヨレスホニスナ大兩一莖交合
 テ六十日程置^テ淨錫ニ入^テ剪熟
 シ布ヲ以漉出ス一法ニシナアモ之
 持^シツアト口ニ浸^シ 蘭葉ヲ以剪取也
 功能心氣不足ニ因^テ胸ヲドリ或瘡

心メ不伸者服メ有効或妊婦四五ヶ月
 月夏思前怒ニ因テ胎脫七八酒ニ調
 服ス或冬時寒氣ニ犯サレテ肌皮血
 凝テ寒痛セハ痛処ニ温メ可塗也
 一 ヲ、リヨヒツトルヨウルン 修治
 ヒツトルヨウルンニ百葉ニワアト口
 百四指目入琉璃ノ菊川ニテ剪取
 功能一切之瘡症已ニ膿潰テ腐肉不
 止ニ付テ腐肉尽ク脱出ス又瘡肉高
 尖セル者乃十分之或癰痛ノ灸後難

口因者孔穴ヲ催ス或厚瘡癩爪等最
 有効也

一 ヲ、リヨリルフラ 修治ヒツトル
 ヲウルンニ目 功能大抵ヒツトル
 ヲウルンニ目而性少ニ輕或咽喉腫
 痛或哮喘等ヲ療ス此ニヨリ

一 ヲ、リヨヘレゲレコト 修治ニ
 ナアモモニ同 功能發背癰疽陰症
 下流ノ難起瘡者或氣腫爪毒一切ノ
 無名腫毒初起テ不然不痛者此藥能

消潰ヲ決方ス也

一 ヲ、リヨハルサモ 修治不詳 切

能專治金瘡或勸摩疼痛痛ノ病ハ温貼

ノ神效有或牙齒耳痛ヲ療ス又少兒

瘡疹癩ヲ結時塗付レハ瘡ヲ而無跡

此藥能生皮肌ヲ殊ニス為

一 ヲ、リヨロニフレイコウロニ 修

治口ニフレイコウロニ數十個採得

テ醇酒浸置度一宿而取出ヲ、リヨ

ホルトカ儿ヲ用テ剪シ水泡盡去テ

濃取 功能手足厥冷筋痺疼痛ヲ治

一切之腫毒底ニ沉テ痛者並治焉

一 ホニトヘツテ 修治肉脂処ヲ取テ

煎用 功能年老人亦急疼痛不止

ニ温可塗又瘡氣ヲ治ス凡ニツ、リ

ヨヲホロニヲ加合テ有効也

一 ヲ、リヨホツス 修治ホツスノ肉

ヲ刻一竹ホルトカ儿一升ワアト口

一 竹メニテ アニイニイノニト

各ニ裁右ニ剪シ水氣竭去テ濃出

功能氣血不順或麻木不仁筋結冷痛
等之症ヲ治也

一 ヲ、リヨケレフニ 修治ケレフニ

二拾兩并皮ヲ去テ細ニ刻ホルトカ
ル十五兩合黄飯 功能凡濕痰ノ腫

痛ヲ療ス或感胃頭痛咳痰内ハ温酒

送下而外又紙ニ浸テ鼻孔ニ搯入リ

多無不治也

一 ヲ、リヨアニイシ 修治アニイシ

持向十兩ホルトカル四兩ニ交右菊

曳ヲ以蒸取テ器ニ入暫澄セテ冷水

ヲ除去用 功能腹脹腸痛腸鳴及積

聚共ニ酒温服或痰涎壅盛或小便使用

法並ニ沸湯温服ス也

一 ヲ、リヨイヒリコニ 修治花ヲ橘

テホルトカニ等分ニ浸壺ニ入口ヲ

能包封而扱灰ニ器ノ半ヲ炮置度日

夜三月後布ヲ以濾取此ヲ移精而法

ト云以一效之 功能金瘡跌撲損傷

或手足痺痛腰脚引痛及一切無名腫

毒或耳鳴痛ハ耳指入ヨ此油能諸腫
痛ヲ療ニ肌肉ヲ生ス誠最上ノ神藥
也

一 ヲ、リヨシニクテイ 修治花ヲ摘

テ移精ス 功能大抵イヒリコニニ

日能爪冷ノ邪氣感矣スルノ膝痛ヲ

療久也

一 ヲ、リヨカモイリ 修治花ヲ取

移精久 功能諸般ノ膝痛爪温冷ニ

属スル者ヲ治久自能四肢筋骨痛ヲ

不伸或小瘡痛痺不常共ニ能奇効有

ニ便秘淡ノ者一盞ヲ服メ可也

一 ヲ、リヨムスア、夕 修治ムスア

夕持而五兩ワアト口四兩入蘭引

ニテ煎取テ器ニ入暫シ澄セテ上ニ

浮油ヲ取用 功能腰痛世汚ハホ口

ウリス口サア口ニ人齋漬ノ汁二三

滴ヲ加服ス或頭痛心痛及咳痰喘急

ハ半盞ヲ可服ス又夜陰難寢者温酒送

下無不効也

△寒性分類

一 フ、リヨスルニ
 黄食塩共ニ味シ
 粉而琉璃之壺ニ入砂ニ埋砂之下ニ火
 置ハ津液内ニ流此汗液ヲ油ト云也
 壺ヲ煖不割搖ニ可心得此油無其成
 ナニ強テ求ハ吹毛テ煉ヲ求ニヤ侍
 ル後ニ出也
 三度也
 湯燄火傷及毒虫刺傷或少兒白秃瘡

並ニ治之身

一 フ、リヨホ口ニ
 功能傷寒邪越裏ニ入煩渴不止及炮
 一 沃寒熱多寡ヲ不令温湯ニ四瀉ヲ服
 ス或大瘡遍身ニ癍ニ然里色ナル者
 ハフ、リヨホ口ニ
 アスイシ右等分和合テ敷可塗多々
 有効也
 一 フ、リヨヒヨ
 機能熱症之瘡瘡色赤

一 癸炆及丹毒瘡ヲ治ス也

一 ヲ、リヨソラト口ニ 修治孰セ

実ヲ取テ移精ス 功能熱ヲ冷ス

ヲ消シ丹毒ヲ治ス其他ヒヨウ久

功能ト通シ用ル也

一 ワアトル口サアロシ 修治花ヲ採

得テ蘭引ヲ以前可取器ヲ入

封スル夏堅固ニ而爪ヲ不感痒ニ可

為 功能爪熱肝火ニ因テ眼自赤腫

病或癩癬痛痒及夏月之熱沸瘡或血

爪瘡其二治之此水能清熱滋肌最上之方也

△温性分類

一 ヲ、リヨソラト 修治スルヲルニ

同ニ 功能微温天地不正ノ気及山

嵐之瘴氣ヲ感渾身拘急憎寒頭目昏

重卒倒セハ急ニ口ヲ閉テ台上ニ少

許下三次ニ水一盞ヲ用テ流入ル

百癸百中ス或虫獸咬刺疼痛處ニ可

付或卒然ト而肢体痺重腫痛スル之

病ヲ世俗ニ日腫ト名ク生死日之内
ニ有リ以也速ニ服スル莫如石ニ而
又患ル処ニ毛塗其後轉糞一分酒ニ
調服ス多ハ死ヲ免ル也

一 ヲ、リヨアフセニテ 修治葉ヲ取
テ研碎移精久 功能虫積ニ因テ心
腹疼痛ニ小腹張滿漸ク日ニ羸瘦ニ
不食ニ顔色青者ハ空腹ニ一盞ヲ服
而虫積盡浮下スル莫妙也或脾胃虛
之者毎早且温酒送下或金瘡下疳諸

一 般之毒瘡其ニ腐深キニハハレハア
フセニテ之煎汁ヲ用テ切ニ洗可去
必有奇効也

一 ヲ、リヨヘニクリ 修治及功能ア
ニイニニ同ニ但ニ藥性少ニ劣守
ヲ、リヨヘニト口 修治葉ヲ刻研
テ移精久 功能中風筋氣或痲痺冷
痛ヲ瘡スル也

一 ヲ、リヨメニテ 修治葉ヲ揉テ刻
研移精久 功能微温心氣虛而精神

不守癩狂之者ニ少宛用ヨ胸支テ不
食セハ酒ニ調服ス或產後ノ血暈共
ニ有効也

一 ヲ、リヨレリヨウ口ニ 修治花ヲ
搗テ刻移精ス 功能諸瘰癧疾痛ヲ止
筋絡ヲ緩ス或婦人產月ニ至テ小腹
及陰門之内外ニ温塗テ難産ノ無患
也

一 ヲ、リヨア儿 テイヤ 修治花ヲ搗
テ刻移精ス 功能中風癱瘓或四肢

拘急之症ニ他之油ヲ加味而畧得奇
効

一 ヲ、リヨウウリイ子 修治嫩芽之
葉ニテモ又ハ熟セル實ニテ毛採得

テ研碎移精ス 功能跌撲下墜及虫
欲咬刺ハ瘡処ニ 可付或瘡腫高起者

ヲ、リヨホ口ニヘイヲ少許加テ付
ヨ或飲食胸ニ支テ吐スル者鳩尾ニ
可塗其効不在一二也

一 ヲ、リヨメ儿 テウウ儿乙 修治壳

ヲ去抹ニ蒸テ結出ス 功能諸腫毒
瘡之肉ヲ症ニハ一ヒリヨニヲ等分
ニ加テ温貼ス 但諸瘡久不痊者忌之
也

一 ヲ、リヨヲホ口ニ 修治黃時之分
ヲ聚テ煎シ色黒ニ變テ而油自ラ出ル
時錫ヲ傾テ油ト糖トノ界ヲ隔又布
ヲ用テ絞液 功能堅硬腫痛難膿者
和之消之或頭瘡瘡瘡テ瘡類タル時付
テ毛髮ヲ生ス或面上赤瘡及小瘡ニ

ハ少宛可塗並瘡氣畢此ニ注入テ痛
時付ハ名腸胃ニ飯收セシムル也

一 ヲ、リヨタアス 修治 功能疥之

ホツスニ等ニ是ニ畧ス焉

一 ヲ、リヨセニトヘイ 修治セニト

ヘイ生ル物ヲホルトカルヲ用テ漬
置更數十日 程経テ蒸液 功能諸毒

虫刺而癢熱癩瘡及湯火傷並能治之
也

一 ヲ、リヨ几个ト 修治葉ヲ刻研テ

一 移精久 功能大底并之ヲ、ラニ用
コト月也

△冷性分類

一 ヲ、リヨ口ウサ 修治花ヲ摘テ核
精ス 功能專撥ヲ清シ痛ヲ止或手
足癱瘓痿痺之症ニハ温テ可塗或小
瘡痲痛共ニ療ス爾
一 ヲ、リヨ口サア口ニ 修治花ヲ採
テ移精ス 功能大底口ウサニ日三
少ニ多性弱キ手

二 ヲ、リヨホウホウリヨニ

修治葉

ヲ採テ移精ス 功能骨筋歩折疼痛

ヲ治ス或頭角ニ塗付テ布可也

△河蘭地油菜配劑

△寒痛ヲ治ニハ

ヲ、リヨカモメリ

ヲ、リヨ口ニフレイコウロニ

ヲ、リヨエナアモミ

ヲ、リヨムスカアタ

ホニトヘツテ

ホコへツテ
 右右等分ニ和シ合油燻ト云ル器
 ニ入熱灰ニ置テ温養ヲ以テ成程
 塗付其上ニハ
 上ニフラストムスラキニフス
 上ニフラストメリロウト
 上ニフラストヲ三口口ニヨニ
 此三色之内何成共木綿ニ伸テ痛
 所ニ蓋其上ヲ長キ木綿ニテ能々
 可巻置

又方

ヲ、リヨカモメリ
 ヲ、リヨカ子イラ
 ヲ、リヨミニヨウカス
 セイへエルシ子
 ホニトへツテ

各等分付様右日シ

又方

ヲ、リヨアニイシ
 ヲ、リヨカ子イラ

ヨ、リヨカリヨウケレイ
ヨ、リヨア、ルト
ヨ、リヨテレシメニテイナ

各等分付揉回前

△契痛多治ニハ

ヨ、リヨロサアロ

ヨ、リヨヒヨウラス各ホ分

ヨ、リヨソラトロ

ヨ、リヨカニフヲ減半

右四色交合塗付テ其上ニハ

エニフラストテヘンスイフ

エニフラストテヤハルマ

エニフラストテヤホニホリコス

右三色之膏薬何成共右之寒痛如

ニ可付又イニクエニタ之類ニテ

イニクエニタロサアロ

イニクエニタスツテルト

イニクエニタホツホウリヨ

イニクエニタアルフルカニアラト

此四色之内何成共是量可付

△温痛ヲ治ニハ
 ヲ、リヨカモメリ
 ヲ、リヨラウリイ子
 ヲ、リヨアルテイ
 ヲ、リヨヘニクリ
 ヲ、リヨイマリコン
 ヲ、リヨフランカ
 右等分掌ヲ混テ塗付其正ニ
 正ニフラストテヤキロニコム
 スヨ、木綿ニ伸テ貼

△沉痛ヲ治ニハ

ヲ、リヨアルテイ
 ヲ、リヨレリヨウロ
 ヲ、リヨア子テイ子
 ヲ、リヨテレメニテイナ
 ヲ、リヨルイト
 ヲ、リヨヘニクリ
 ヲ、リヨ三ニクテイヤ

各等分温貼ス

又方

ヲ、リヨアルテイ
 ヲ、リヨレリヨウロシ
 ヲ、リヨハ子クケル
 ヲ、リヨヘニクリ、
 ヲ、リヨテレメニテイナ
 各等分付様同前
 △中凡癱瘓不仁之症ニ
 ヲ、リヨカモメリ
 ヲ、リヨレリヨウロシ
 ヲ、リヨホツス

ヲ、リヨタアス
 ヲ、リヨナアカラ

各等分ニ和合可塗付

△瘧疾筋搖榻之症

ヲ、リヨア子イテ
 ヲ、リヨカモメリ
 ヲ、リヨイヒサコシ
 ヲ、リヨアセトウナ

各等分和勻

又方

ヲ、リヨテレメニテイナ
ヲ、リヨカモメリ
ヲ、リヨアニイシ
ヲ、リヨミニヨウカス

各等分和句

△脚氣ヲ治ニハ

ヲ、リヨラウリイ子
ヲ、リヨア子イテ
ヲ、リヨミナアモミ
ヲ、リヨカモメリ

各等分和句

△筋骨疼痛ヲ治ニハ

ヲ、リヨヒヨウラス
ヲ、リヨモニトウニ
ヲ、リヨムスカアタ
ヲ、リヨア子イテ

各等分和句

△諸般之痛ヲ止塊ヲ和ルニハ

ヲ、リヨテレメニテイナ
ヲ、リヨメルテロウル

ヲ、リヨナアカラ
ヲ、リヨアニイシ

又可也
右等分和勻或手足屈伸ニ慵者モ

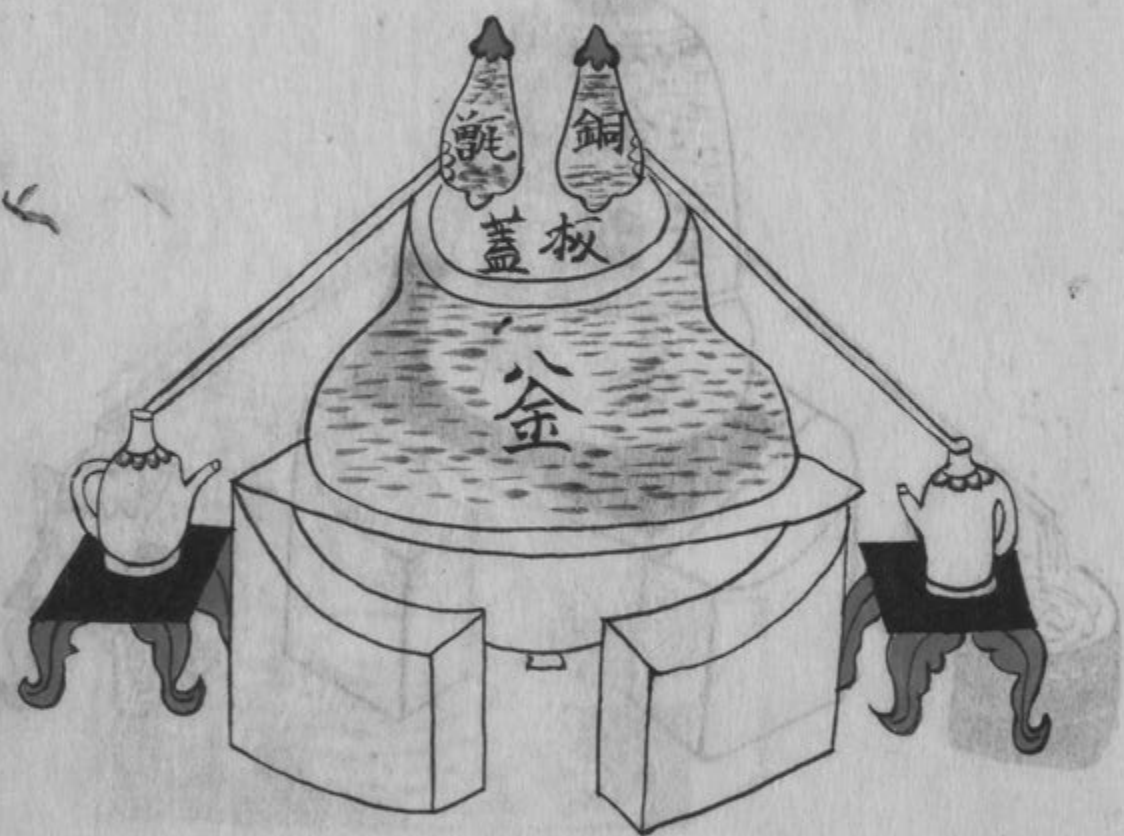
筋結疼痛ヲ治ニハ

ヲ、リヨテシメニテイナ
ヲ、リヨカモメリ
ヲ、リヨアニイシ
ヲ、リヨロニアレイユウロニ

各等分調塗

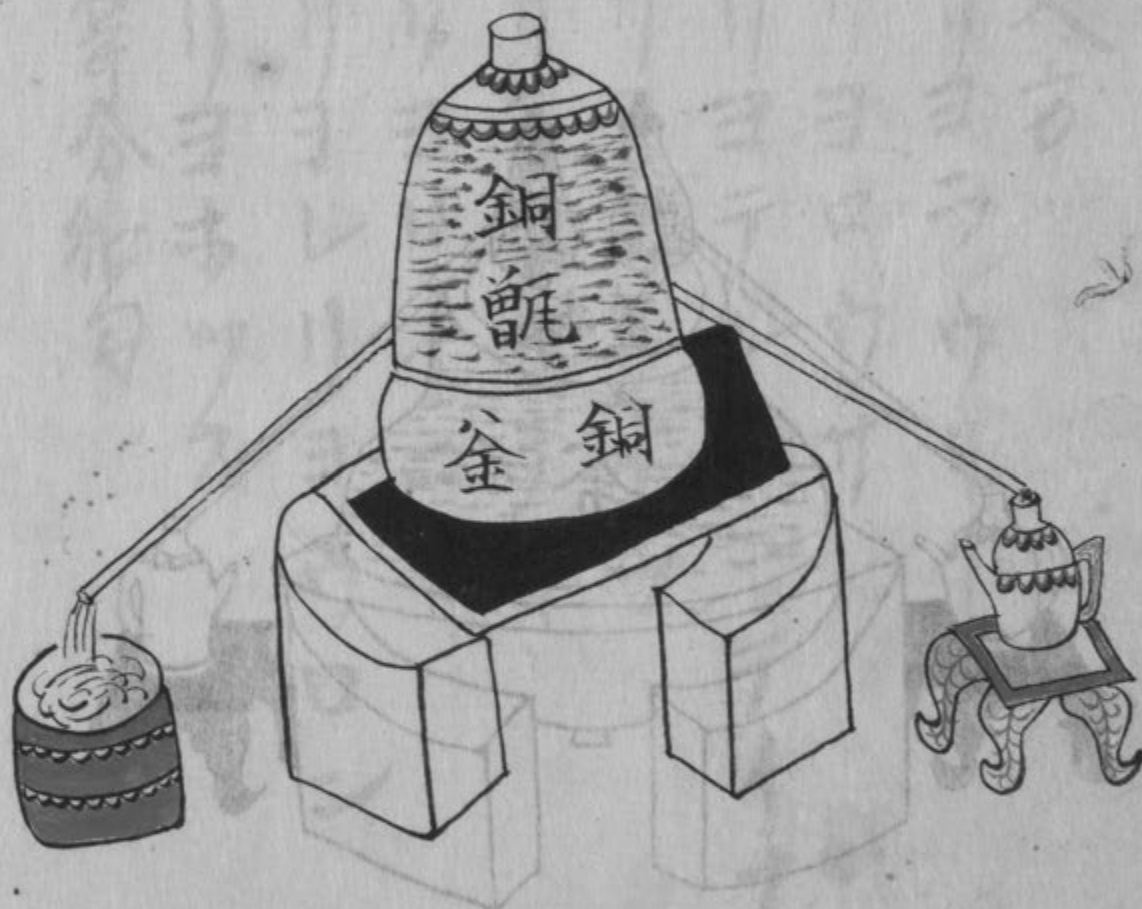
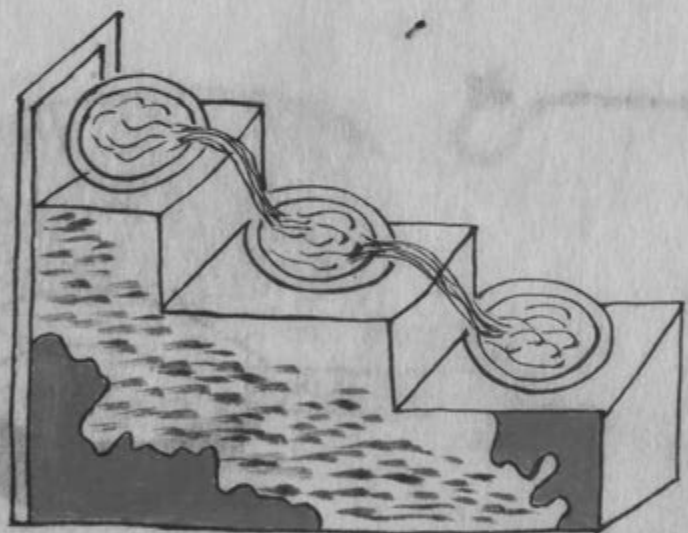
△赤身疼痛ヲ治ニハ

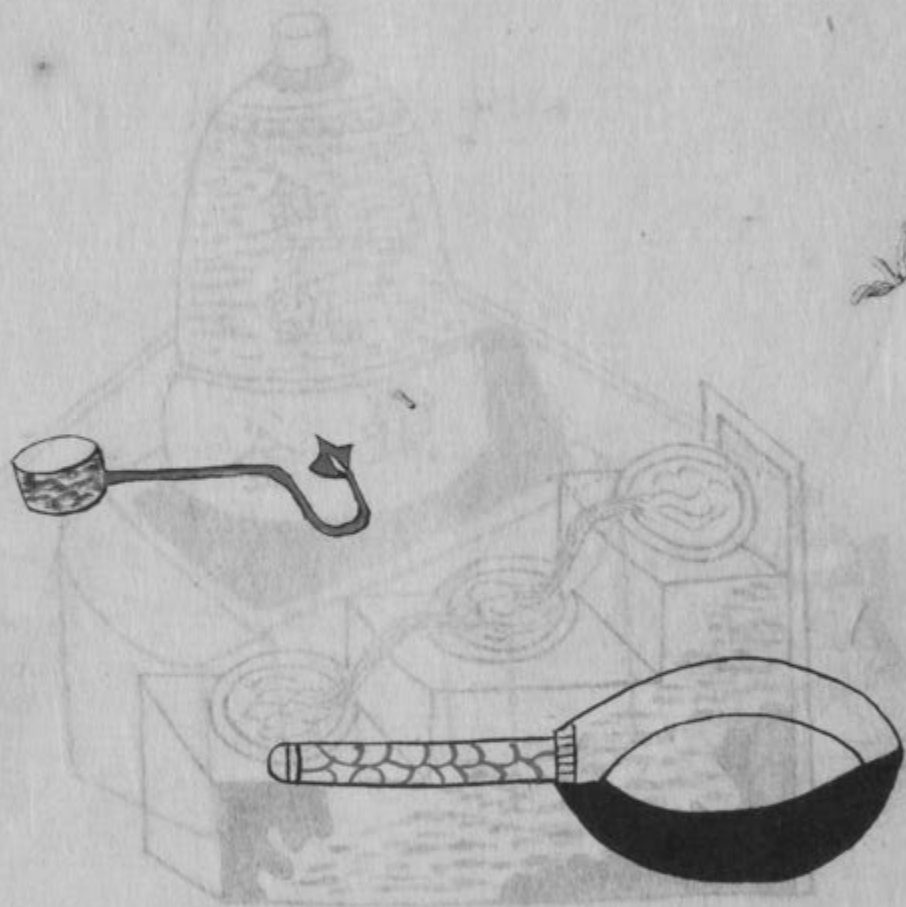
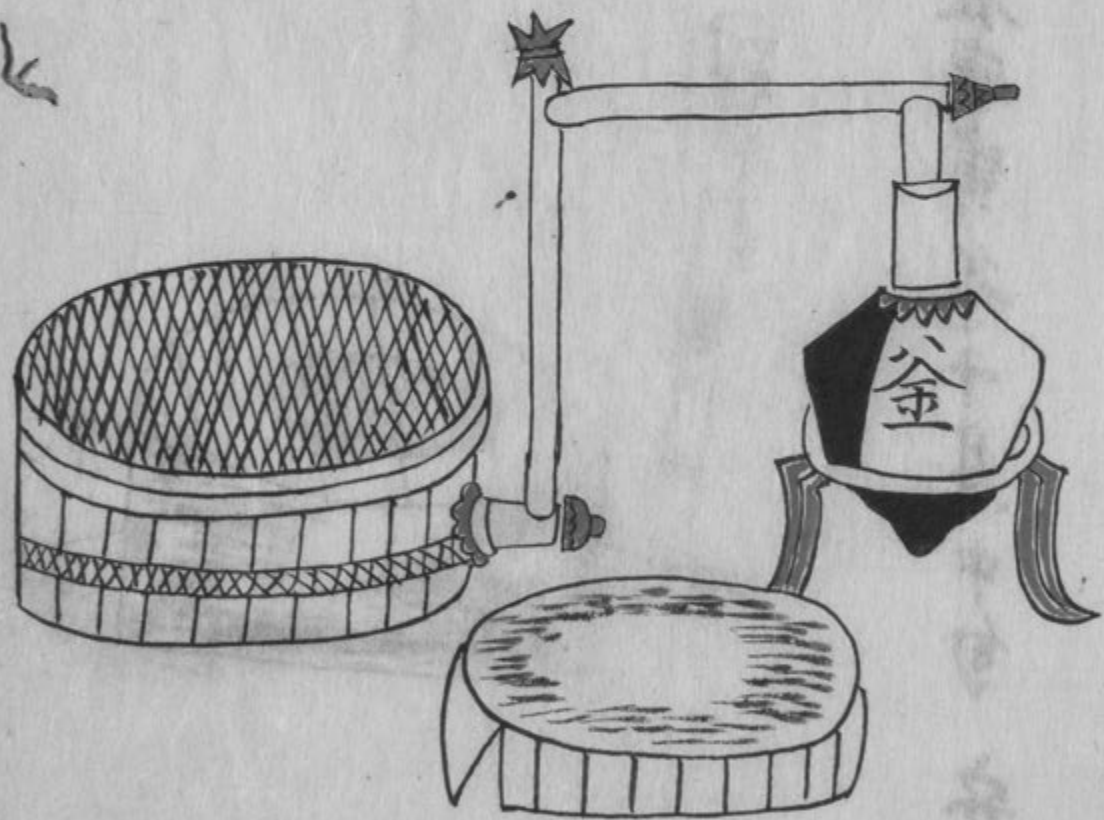
ヲ、リヨフレイルサニホウシ
ヲ、リヨロウサ
ヲ、リヨシナアモミ
ヲ、リヨアルテイ
ヲ、リヨリイニ
ヲ、リヨレリヨウロニ
ヲ、リヨテレメニテイナ
ヲ、リヨホツス
各等分和對ル



又方
 ヲ、リヨラウリイ子
 ヲ、リヨロウサ
 ヲ、リヨテレメニテイナ
 ヲ、リヨカ子イラ
 ヲ、リヨアルテイ
 ヲ、リヨリイニ
 ヲ、リヨレリヨウロン
 ヲ、リヨホツス

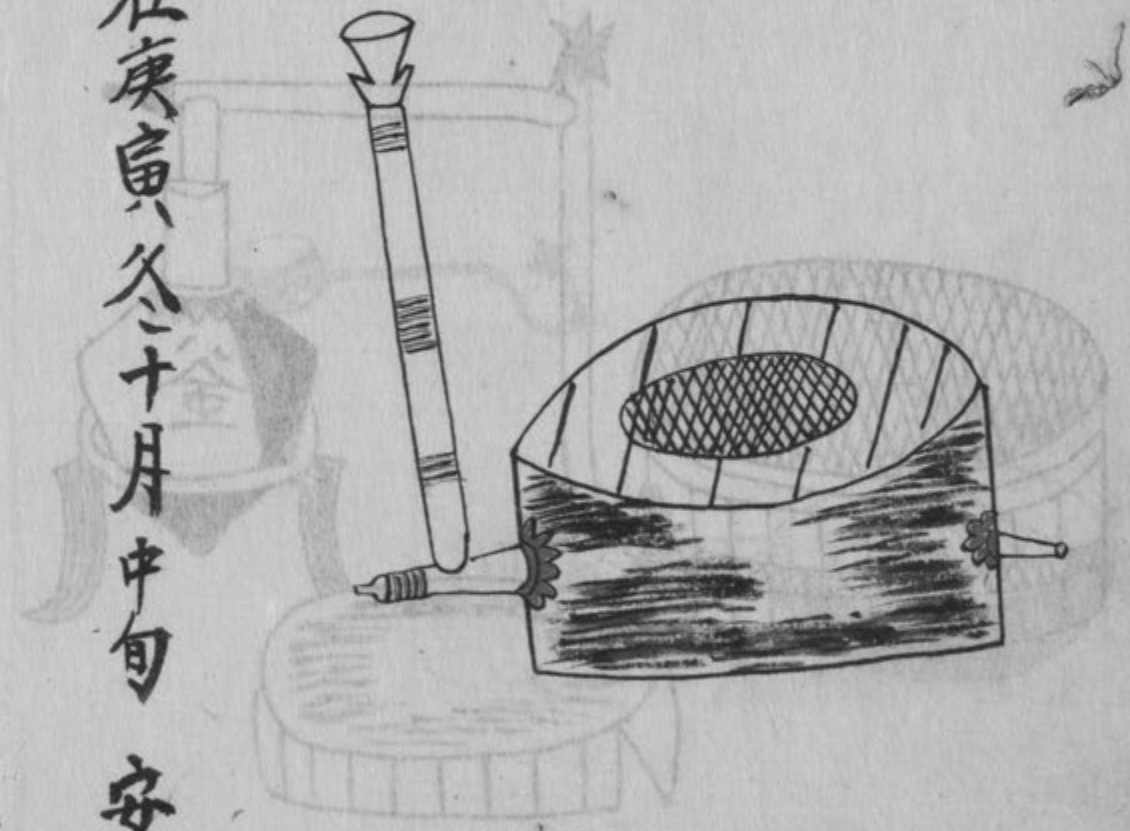
各等分和勻



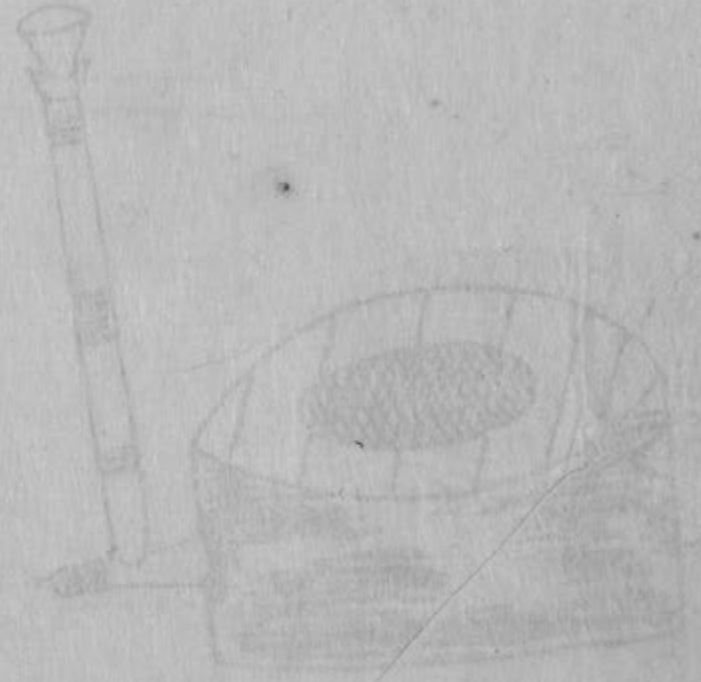


文政十三年在庚寅冬十月中旬

安原元良誌



文政十三年在庚寅冬十月十日 舟橋元吉



舟橋元吉

